輸送経済新聞　2026年11月10日付

複写・転送禁止

パブテックス

返品率減らし収益改善

丸紅と出版大手3社出資

丸紅グループと大手出版社3社が出資するPubteX（＝パブテックス、本社・東京、渡辺順社長）は返品率を大きく減少させて出版業界の収益改善を図り、出版流通を維持することを目指している。RFIDや各種データ、AIなどを使いプラットフォーム（基盤）を構築。「必要な量だけ作り、運び、売る」仕組みをつくる。（高橋　朋宏）

取次各社と連携して構築した仕組みで、新刊の配本は従来通り取次が行い、提携する書店から追加注文された分（注文流通）の情報流と物流をパブテックスが担う。

通販大手の混載便など利用

商流（取引・決済）や返品物流は引き続き取次が担当。配送は出版物専門の物流ではなく一般物流を活用し、オフィス用品通販大手が毎日配送しているトラックの空きスペースを使った混載便をはじめ、物量や地域に応じて最適な運び方を組み合わせる。



「データを販売戦略に反映させて出版業界の収益を改善する」と渡辺社長

出版物専門の物流は、荷量の減少が直接コスト増につながり、運賃が上がった際などの影響も受けやすい。一般物流を活用することで、物量に依存しないコスト構造にする。

配送手段はオフィス用品通販大手の混載便に限らず、総合商社として培った全国の物流ネットワークを生かし、配送地域や物量に応じて最適な運び方を組み合わせる「ベストミックス」を構築する。また、連休前後に生じる物量の波動を発注の前倒しによって平準化し、積載率を高める「物流計画」機能も備える。消費財や食品など他業界で運用実績のある平準化の知見を生かす。

コミックへのRFID貼付は2023年に出版社4社1億冊で開始。25年にコミックの貼付率80％を達成しており、26年は15社2億冊となる見通し。文庫や新書などのジャンル拡大についても出版社と協議を重ねている。書店33法人132店舗が「注文流通ソリューション」を導入済みで、早期の1000店舗超導入を目標に掲げる。

フルサービス28年10月提供

注文流通ソリューションの物流は26年10月に全国でサービスを開始した。今後、段階的に機能と対象を拡充し、28年10月にもフルサービス化する。

渡辺社長は鈴与、丸紅で25年以上にわたり物流事業に携わり、倉庫・配送事業の立ち上げを数多く手掛けてきた。オフィス用品やアパレル、食品など他業界でも業界課題の解決に取り組んだ経験を持つ。16年から出版物流の改革に携わり、22年のパブテックス設立にも関与。25年1月にパブテックス社長に就任した。

渡辺社長は「出版業界は30％もの返品が発生し、経済ロスは2000億円ともいわれている。実際、売れる見込みがない新刊でも全国の書店に一斉に配本する。データを使って全国の各書店に運ぶ量を最適にしてロスをなくす」と話す。

さらに「オフィス通販大手は用品を店舗やオフィスに届けるのが得意で、出版物配送との親和性が非常に高いと以前から感じていた」とし、RFIDから得られるデータを活用し、どの本が今どこに何冊あり、どう動いたかを流通全体で可能な限り詳細に把握し、販売戦略に反映させて出版業界の収益改善を図る考えを持つ。